



秋月藩の絵師・齋藤秋圃が描いた江戸時代の有田人



齋藤秋圃自画像

季刊皿山No.110でも紹介した秋月藩の御用絵師が描いた作品などの資料1400件余が、このほど子孫の齋藤仲道さんから太宰府市へ一括寄贈されました。過日、それを記念する講演会があり、研究者である橋富博喜前近畿大学教授が膨大な資料の調査に基づく研究の成果を報告され、また寄贈品を網羅した報告書『大宰府の絵師調査報告一 齋藤秋圃・梅圃関係資料』も太宰府市教育委員会から発行されました。その中に、有田に関する資料がいくつかありましたので今回ご紹介いたします。

齋藤秋圃に関してはすでにご紹介しているので、再掲は避けませんが、安政6年(1859)に亡くなった秋圃は晩年のころに有田に滞在しているようです。屏風や掛け軸の作品はすでに紹介したとおりですが、今回、太宰府市に寄贈された資料の中に、おそらく肖像画の下書きではないかと思われる作品があります(目録番号213 人物図冊)。その中

ば明治25年(1892)に69歳で亡くなったとあります。秋圃が描いた人物は当時、91歳とありますので、もしかすると儀平という名の父がいて、それを継いだのかもしれませんが。ちなみに『肥前陶磁史考』を著したのは儀平の子孫である中島浩気です。

さらに後藤祐誓というのは剃髪でもあり、ヒヨコ場(稗古場のこと)に住んでいた医師だと思われます。後藤祐一という医師であり、西松浦郡会議員も務めた人がいますが、同じく『肥前陶磁史考』には「稗古場の産科医祐益の男」とあります。祐誓は祐益の父かもしれません。また、赤絵屋の栄助というのは北島栄助のことで、16軒の赤絵屋の一軒でした。『肥前陶磁史考』によれば、慶応4年(1868)に亡くなった五代目の北島源吾のことだと思われますが、俳句の号が松巨とあります。

いずれも写真のない時代、大宰府市のみならず、有田町にとっても、江戸期に生きた先人のよすがをしのぶことができる貴重な資料といえます。

(尾崎 葉子)



1 白川儀平像

に有田の先人と思われる人々がいて、「有田 白川儀平 九十一歳」とあります(㊦1)。さらに「有田ヒヨコ場 後藤祐誓 五十五歳」(㊦2)、「有田赤絵屋 栄助松巨」(㊦3)の三人には絵の横に説明書きがあるので、少なくとも三人の有田の先人を描いていることがわかります。このようにだれを描いたかを書き記してあればいいのですが、中には肖像画のみでその人物を特定できないものも多数あります。

「白川儀平」というのは、白川に住んでいた中島儀平という窯焼き(窯元)で、『肥前陶磁史考』によれ



2 後藤祐誓像



3 赤絵屋栄助像

※画像の提供は太宰府市教育委員会

皿山

季刊

No.120

冬

2018

有田町歴史民俗資料館・館報

旧田代家西洋館(有田異人館)が 国の重要文化財に指定されます

有田異人館は、有田を代表する貿易商の田代紋左衛門の子、田代助作が外国人の接待や宿泊のために明治9年(1876)に建築した擬洋風建築の建築物で、明治初頭の有田の繁栄を伝えています。佐賀県重要文化財として、これまで大切に保存するとともに、一般公開してきましたが、平成30年10月19日、国の文化審議会において重要文化財(建造物)に指定することが文部科学大臣に答申されました。今後は官報告示を経て、国の重要文化財になる予定です。今回の重要文化財への指定基準は「学術的価値の高いもの」とされています。近代初頭の有田における商取引の様相を知る上で高い価値を有しているものと評価されました。

指定の名称はこれまでの「異人館」から「旧田代家西洋館」に変わりました。田代家から有田町に寄贈された「田代家文書」の中の祝賀会の案内状や手紙の控えから、当時、西洋館と呼ばれていたことがわかっています。また、小屋裏に残されていた明治9年の棟札1枚も、附(ツケタリ)指定となりました。棟札によって、明治9年に建設されたことと、施主、および建設に関わった大工名が明らかになっています。

旧田代家西洋館は、平成25年度に町が田代家から譲り受けた後、平成26年度から平成28年度にかけて大規模な調査解体工事、保存修理工事を行いました。

工事にあたっては、どの時代に復原するかを有田異人館保存活用検討委員会で議論し、明治9年の建築当初の姿に復原することとなりました。この建築当初の姿に復原したことも、今回高く評価されました。また、耐震補強を経て、より安全な施設として、今後とも未永く活用していくことができる環境を整えました。平成29年度より、一般公開をして多くの皆様にご覧いただいています。

有田町では、有田内山地区が平成3年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、以来、地区の住民の皆様とともに町並みの保存に努めてまいりました。その伝統的建造物の一つの旧田代家西洋館が国の重要文化財に指定されることは、有田町にとって大変名誉で喜ばしいことです。今後も、後世に残るよう保存しながら、町並みの核となる施設として、活用を進めてまいります。
(旗島 史郎)

所在地：有田町幸平一丁目2-6

開館日：土・日・祝日、陶器市期間(4/29～5/5)、
秋の有田陶磁器まつり期間

開館時間：午前10時～午後4時

休館日：平日、年末年始(12/28～1/4まで)
但し、臨時休館の場合あり

入館料：無料



棟札

有田町明治維新150年事業 「有田偉人博覧会」

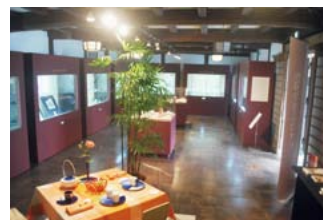
有田陶磁美術館企画展 「お茶を召ませ！ 幕末明治のカップ&ソーサー展」 開催しました

平成30年10月17日(木)～11月25日(木)まで、有田町大樽の有田陶磁美術館にて「お茶を召ませ！幕末明治のカップ&ソーサー展」を開催しました。展示したのは、兵庫県赤穂市にお住いの近藤裕美さんが、アメリカ在任時に収集された、有田や三川内、横浜などで作られた製品と、有田町内の古美術商で、明治有田磁器の研究家でもある蒲地孝典さんが収集された製品です。

明治期に実際に海外に輸出されていた製品の里帰り品を、明治に建てられた建物（陶磁美術館は明治7年建造）で展示したためか、「展示内容にストーリー性があったよかった」や「カップ&ソーサーは、色んなものを見聞きしてきた帰国子女ですね」といった声や「明治時代に、

このような技術があったなんておどろいた」といった、当時の職人の思いを感じ取っていただくような感想をいただきました。

今回の企画展は有田町明治維新150年事業の一環として行われましたが、常設展とは全く異なるおしゃれな空間の美術館の姿を、たくさんの方々に楽しんでいただき、なんと期間中の来場者数は、通常の5、6倍ほどにも増加しました。



有田町歴史民俗資料館企画展 「万博にかけた夢 有田人の万国博覧会」 開催しました

平成30年10月27日(土)～11月25日(木)まで、有田町泉山の有田町歴史民俗資料館東館にて企画展「万博にかけた夢 有田人の万国博覧会」を開催しました。27日(土)のオープン初日は、10時からテープカットを行い、企画展担当者が展示解説を行いました。翌28日(日)は、関連イベントとして、明治期に活躍した先人を先祖に持つ方々を招いて、トークイベント「万博に賭けた先人の志」が、有田異人館（有田町上幸平）において行われましたが、どちらも大変盛況に終わることができました。

今回の企画展およびトークイベントは、有田町明治維新150年事業の一環として行われまし

たが、コンセプトである「有田偉人博覧会」という名称の通り、明治期の有田の人々が何を思って万博に行き、何を持って帰ったか、どう考えが変わったか、というような人々の「思い」をテーマにして開催しました。来館の方からは、「明治も今も実はあまり変わらないのではないかと、現代もここから学ぶべきでは、と思えた展示だった」、「(万博に行く前は)同じ考えだったのに、意見が対立するところが面白かった」というような感想の声を頂き、当方が企画展を通じて伝えたかった「思い」が来館者に通じたことを大変うれしく思っています。

(永井 都)



27日：テープカットの様子



27日：展示解説の様子



28日：トークイベントの様子



唐船城築城800年記念事業

11月3日(日)、4日(日)に両日とも天候に恵まれイベントが開催されました。3日は松明行列や平戸神楽、篠笛奏者ことさんの演奏などが行われました。4日は唐船城累代城主の遺徳顕彰祭が執り行われたほか、さまざまな催しが行われました。

11月11日(日)の記念式典では3部構成で、第1部に西有田中学校の吹奏楽や、自作のよろい武者のお披露目、山谷浮立の披露、第2部は式典がされ、第3部にミュージカルの公演、最後に千々石鉄砲隊によるアトラクションと大盛況でした。



千々石鉄砲隊によるアトラクション

11日の記念式典までに第1部会で決まっていた事業の全てが完了しましたので、それらのご紹介をします。

発掘調査として、9月に唐船城公園の敷地内の一角で調査を行いました。古地図や山に残る遺構の構造からおおよその目星をつけ、調査に臨みました。想定していた遺構の確認はできませんでしたが、おおよその旧地形や、土層の堆積状況から、過去の旧耕作の跡や、河川の氾濫の痕跡、用途は不明ではあるものの、木製品の出土、16世紀の中国の焼物の破片などが確認できました。

唐船城や有田氏を研究する上で、大変重要な『唐船山 三星鑑』という大正14年に刊行された歴史書があります。今回、執筆者の椎谷孟保氏の孫である椎谷智周氏のご協力の元、その歴史書のダイジェスト版を作成いたしました。これまで、門外不出であったため表に出ることのなかった本書の中から、唐船城や有田氏に関する部分を抜粋して作成しました。今後配布場所等について実行委員会で協議し、決定次第町のHPや広報等でお知らせする予定です。



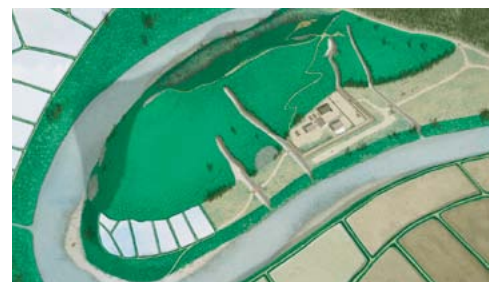
説明看板設置状況

唐船城がある唐船山に説明看板を15箇所新たに設置しました。サイズも5種類あり、唐船城を満遍なく散策し、ところどころに設置した説明看板を読んでもいただければと思います。なお、山田神社をスタートとし所要時間別に3つの順路を設定しているので、是非歩いてみてください。

ガイドブックを片手に唐船城を散策してもらえれば、という思いで作成したのが『唐船城散策あんない』です。A5サイズの24頁で、持ち歩きに便利なガイドブックができました。唐船城についてわかりやすく紹介しています。今後各所に配置予定ですが、現在は山田神社に置いてありますので、是非手に取ってみてはいかがでしょうか。

イラストについては、8月に復元画家の富永商太氏をお招きし、現地の調査・視察を行い、現山田神社側(北側)と現唐船城公園側(南側)の2枚の復元イラストを作成していただきました。いずれも奈良大学の千田嘉博教授の監修となっています。こちらのイラストは現地に看板としても設置しておりますし、今回作成したガイドブックにも載せておりますので、是非ご覧ください。

(伊達 惇一朗)



復元イラスト 現唐船城公園(南側)
絵/富永商太 監修/千田嘉博

季刊『皿山』

通巻120号(平成30年12月1日)

編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山一丁目4-1

☎0955-43-2678 FAX0955-43-4185

URL: <http://www.town.arita.lg.jp/main/169.html>